

## 研究授業「コミュニケーション演習Ⅱ」の実施報告

森 享子<sup>1</sup>、 蓮井 孝夫<sup>2</sup>

### Report on Implementaiton of an Open Class “Introduction to communication exercisell”

Kyoko Mori<sup>1</sup>, Hasui Takao<sup>2</sup>

#### 要約

本稿は平成 30 年度後期研究授業の報告である。コミュニケーション演習Ⅱの講義では、学位授与の方針に関する、社会人として活躍できる力を身につけるために、コミュニケーションの理論だけでなく、自分の気持ちをしっかり表現でき、相手のところに伝えられるよう工夫している。また的確なコミュニケーションを図り、社会の様々な問題解決に取り組めるよう、毎回のグループワークやディスカッションなどのアクティブラーニングによる授業を行っている。学位授与の方針では、「現代社会の様々な問題に関心を持ち、多様な立場の人々との確にコミュニケーションを図るとともに、リーダーシップを発揮することで問題解決に取り組める」能力の育成が大切であると述べており、特にこの能力を高めるための授業と考えている。

キーワード：自己理解、コミュニケーション、振り返り、グループワーク、ディスカッション、ワークショップ、ダイアログ

#### (Abstract)

This paper is a report of a lecture that was conducted for educational research in the second semester of the 2018-2019 school year at Takamatsu University. In the lecture, Communication Practice II, the goal was to follow the outline of the diploma policy outlined by the university and build students who are able to be active members of society, not only in terms of the theory of communication, but also keeping in mind that students must be able firmly express themselves and convey their feelings persuasively to others. In order to accomplish this goal, we developed active learning lectures with group work and discussion in every instance so that we could help students communicate properly and work on solving various problems in society. According to the diploma policy, it is important to train students to have the ability to "be interested in various

issues of modern society, to communicate accurately with people in diverse positions and to work on problem solving by demonstrating leadership." This lesson especially focused on enhancing these abilities.

Key words: self-understanding, communication, reviewing, group work, discussion, workshop, dialog

---

## 1. 実施の日程等

### (1)研究授業の日程等

日時 2018年11月15日

場所 本館3階309講義室

課目名 コミュニケーション演習Ⅱ

対象学年 1～4年生

対象学科 経営学科

参観教員 丸山、末包、正岡、山口、岡本、花城、宇野、岡田、松田、日笠

### (2)検討会の日程等

日時 2018年11月15日

場所 本館3階305演習室

参加教員 森、蓮井、丸山、末包、正岡、井藤、山口、岡本、花城、宇野、岡田、松田、日笠

## 2. 「コミュニケーション演習Ⅱ」の授業計画

### (1)【授業の紹介】

「あなたの周りで、心から話し合える友人は何人いますか」「あなた自身の悩み・苦しみを受け止めてくれる人はいますか」「あなたの気持ちは、何%くらい相手に伝えられていますか」などの問いに、多くの学生は「的確なコミュニケーション能力」を身につけたいと答えます。

この授業（演習Ⅱ）では、学位授与の方針に述べる「社会人として活躍できる力を身につけるために、コミュニケーションの理論だけでなく、自分の気持ちをしっかり表現でき、相手のところに伝えられる」よう工夫しています。

また的確なコミュニケーションを図り、社会の様々な問題に取り組み解決できるよう、毎回のグループワークやディスカッションなどのアクティブラーニングによる授業を行っています。

## (2) 【到達目標】

- ①「ペアワーク」、「グループワーク」等を通じて、自分の伝えたいこと話すことができる。
- ②授業での演習を通じ、自ら考え・判断・行動できる力をつけることができる
- ③相手の話すことばの向こうにある「心のことば」の理解を深めることができる。
- ④「プレゼンテーション力（基礎的）」を身につけることができる。
- ⑤的確なコミュニケーションを図ることによって、社会の様々な問題の解決に取り組めることができる。

## (3) 【授業計画】

- 第1回 ことば表現演習：オリエンテーション「伝える力づくり」
- 第2回 ことば表現演習：「大学でのコミュニケーション力の学び」
- 第3回 ことば表現演習：「心のレフレミング」（心の枠組みを見つめる）
- 第4回 ことば表現演習：「パブリック・スピーチ」
- 第5回 ことば表現演習：「文章の理解を深める」（「1%の力」鎌田實著）
- 第6回 ことば表現演習：「社会的スキルを身につけよう」
- 第7回 ことば表現演習：「トラブル・葛藤とのつき合いかた」
- 第8回 ことば表現演習：「7つの習慣」「マズローの欲求段階からの学び」
- 第9回 ことば表現演習：「キャッチ・フレーズづくり」
- 第10回 ことば表現演習：「友達への99の質問」
- 第11回 ことば表現演習：「ほめ言葉のシャワー」
- 第12回 ことば表現演習：「事実・感情・願望を正しく理解」
- 第13回 ことば表現演習：「ワールド・カフェ」（自分と他者の意見の違い）
- 第14回 ことば表現演習：「面接のはじめのはじめ」
- 第15回 ことば表現演習：「クルーザー物語」（グループワーク）
- 定期試験

## (4) 【授業時間外の学習】

社会生活を送るには、「自分をしっかりもった人」「自立・共生できる人」が求められています。そのためには、社会での多くの実体験が必要です。アルバイトやインターシップ、ボランティア活動だけでなく、クラブ活動、旅行、読書、映画鑑賞、美術鑑賞などを通じて、多くの友人・知人をつくって下さい。その友人・知人は将来あなたの「心豊かな財産」になるでしょう。

毎回の授業の最後に「授業ふりかえりレポート」を復習として課します。自分の変化や成長を記述して下さい。（復習）

毎回次のテーマについて調べてくるという宿題を出しますので、事前にキーワードで検

索したり、図書館で関連する本を読んだりして、予習してきてください。事前を知っておくことによってディスカッションが活発にできるようになります。（予習）

質問などについては、「授業ふりかえりレポート」に記述する、もしくはオフィスアワーを設定していますので、掲示板で日時を確認の上、質問に来てください。

#### (5)【成績の評価】

受講態度（約30%）、授業ふりかえり・レポート（約30%）、テスト（約40%）など、総合的に評価（添削し返却又は口頭によるフィードバックを行う）します。

#### (6)【使用テキスト】

使用テキストなし、随時授業資料を配付（保存のこと・資料持ち込みテスト）

#### (7)【参考文献】

随時提示

### 3. 今日の授業の進め方

今日の授業では「ワールド・カフェ」という新しい議論の形を取り入れます。話し合いのテーマは「大学時代にやっておくべきこと」です。授業の進め方としては「ワールド・カフェ」の手法に従って、以下の述べるような順番で行っていきます。

#### 3-1 お互いに自己紹介（2人で3分）

#### 3-2 今日のことば

集団で取り組むことに一人ひとりが全力を注ぐ。これがチームワークを生む。

チームワークを育むには、人のやったことに対して感想を言い合うことが大切です。

不必要に仲良くなんかせずにお互いをよい意味でライバル視していればいい。

素晴らしいチームワークは、切磋琢磨の中から築かれていくもの。

チームといっても、結局は一人ひとりの人間です。

その一人ひとりと真剣に向き合い、本音をぶつけ合わなければ信頼関係をつくることはできません。

1人の100歩より、100人の1歩が大事。チームワークである。

#### 3-3 ワールド・カフェの進め方

##### 3-3-1 「ワールド・カフェ」とは

「ワールド・カフェ」は、参加者が本当に話し合いたいテーマについて、自由に意見を出し

合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深めることを目的としています。急いで問題を解決したり結論を出したり、終わった後に合意形成ができていたりすることが目的ではありません。もし、そのような結果を望んでいるのであれば、別の話し合いの手法やプロセスを検討する必要があるかもしれません。あるいは、ワールド・カフェの後に、別の手法（グループワークなど）で結論を導く必要があります。

話し合いの手法としてワールド・カフェを選択するのであれば、ワールド・カフェは、以下のような目的に効果を発揮します。このような目的であれば、ワールド・カフェは、参加者全員にとって価値ある機会となるでしょう。

- ①全員に自由に意見を言ってもらいたい。
- ②いつもと違う雰囲気での話し合いをしたい。
- ③多くの知恵や考えを集めたい。
- ④考えや認識を深めたい。
- ⑤新たな気づきを得たい。
- ⑥相互理解を進めたい。
- ⑦お互いの関係性の質を高めたい。

多くの人は、硬い雰囲気ですらよりも、ゆったりとして肩の凝らない場の方が話をしやすいものです。「カフェ」のようなリラックスした雰囲気、気楽に、でも真剣味ある話ができる場、それがワールド・カフェの場です。それによって、参加者同士の関係の質も高まり、組織やチームが、次のステップに向かっていく勢いがつきやすくなります。

### 3-3-2 大切なのは「おもてなしの心」

ワールド・カフェを主催するにあたり大切なこと、それは「おもてなしの心」です。ワールド・カフェの参加者に、できるだけ「自分から積極的」に話をしてもらうためには、話したいことが話せるというムードが大事です。そのためには、ワールド・カフェの場が、安心・安全な場、リラックスできる場である必要があります。参加者に快適にすごしてもらえるような会場の準備をするのはもちろんのこと、ファシリテーターの態度からも、そのような雰囲気を創り出していくことが大切です。それらはいずれも「おもてなしの心」によって生み出されます。

- ①リラックスしてもらいたい。
- ②楽しんでももらいたい。
- ③快適に話し合ってもらいたい。

このようなおもてなしの心が、参加者がリラックスできる雰囲気を作り出し、ワールド・カフェの効果を最大限に発揮するカギとなるのです。

### 3-3-3 ワールド・カフェ方式とは新しい「話し合いの手法」

「ワールド・カフェ方式」とは「話し合いの手法」の1つです。企業・学校等で行われ

る「グループディスカッション」や「ディベート」と同じような方法です。1995年にアニー・ブラウン氏とデイビッド・アイザックス氏によって開発・提唱された比較的新しい話し合いの手法です。

### 3-3-4 ワールド・カフェ方式のやり方とは？

やり方については、多少差がありますが、基本的なやり方は下記のようなようです。

#### ① 4人1組で席に着く

ひとつのテーブルに、4～5人（原則4人）が座ります。カフェのような雰囲気が必要です。4～5人の人数であれば、話す時間と聞く時間のバランスがとりやすく、話し合いの手法としてワールド・カフェ形式が生きてきます。なお議論の「テーマ」は、どのテーブルも同じにします。

#### ② 一定時間で1人を除き他の者は席を移動する

20～30分程度の話し合いを数ラウンド行います。ラウンドが変わるごとに、1人（ホスト）を残して全員が他のテーブルにそれぞれ移動します。このやり方であれば、ラウンドごとに、別のテーブルの話し合いに参加できます。1人残った人は、移動してきた人にそのテーブルで進んだ話の内容を簡単に伝えます。

#### ③ 紙に意見やアイデアを書く

テーブルの真ん中には、それぞれ模造紙（又はA4、A3用紙）などを置いておきます。そこに議論のなかで浮かんできた疑問やアイデアを自由に書き込んでいきます。このようなやり方をすれば、移動してきた人でも、その前にどんな事が話されていたかが分かりやすく意見も出しやすくなります。ホストを決めて、ホストがメモをすることもいいことです。

#### ④ 参加者全員で情報を共有する

最後は、全体で情報を共有します。特に、それぞれ別の話の進み方にしたにも関わらず、同じ意見になった点について、より深く掘り下げます。ただ、「ワールド・カフェ方式」は、答えを出す事をゴールにした話し合いのやり方ではありません。人々がオープンに会話をを行い、新しいアイデアや知識を生み出すのが目的です。

### 3-3-5 ワールド・カフェのエチケット

普通のカフェにも、「禁煙席では喫煙をしない」等のエチケットがあるように、ワールド・カフェにもエチケットがあります。安心な雰囲気の中で自由に対話ができるよう、参加者に伝えましょう。

#### 【エチケットの例】

- ① 対話を楽しむ：結論を無理にまとめる必要はありません。その場に出てくる話と、参加者との対話を楽しみましょう。
- ② 話をよく聴く：話すばかりではなく、他の人の話によく耳を傾けましょう。

- ③“質問”して広げる：わからないことや理解できないことは質問してみよう。質問することで理解が深まり、対話が広がります。
- ④否定しないで、受け止める：議論の場ではありません。多様な意見を受け入れ、それに触発される自分自身を楽しみましょう。
- ⑤リラックス：正解はありません。間違いもありません。一人ひとりの発言が、誰かの気づきや新たな視点の発見に繋がります。リラックスして話そう。
- ⑥アイデアや思いついたことを書く！描く！つなぐ！：思いついたことや話したいことなどのキーワードを、テーブル上の用紙に書いたり、絵を描いたりしながら、対話を残していきましょう。必要ならば、それらを線でつないで関係を示すと、何かの発見があるかもしれません。
- ⑦テーマにフォーカス：テーマについて話をするよう心がけましょう。著しい脱線は、限られた対話の時間を浪費してしまいます。参加者全員が、テーマにフォーカスした深い洞察と対話によって、場は活性化します。  
すべてのエチケットを徹底しようとする、束縛された感じを参加者に与えてしまうので、主催者が、大切だと感じていることにフォーカスをあてて紹介しましょう。

### 3-3-6 「ワールド・カフェ方式」の効果とは

正しいやり方の「ワールド・カフェ方式」の効果は、話しやすく、発言が増え、様々な意見に触れ合えることです。正しいやり方で行われれば効果が高く、「参加してよかった」と思う人が多いようです。「ワールド・カフェ方式」が広まりを見せている事が、それが効果のある話し合いの方法だと示しています。

主な効果としては、以下のようなものが挙げられます。

#### ① 自分の意見を言いやすい

「ワールド・カフェ方式」の最初の効果は、話しやすい環境で、参加者が口を開きやすいという点です。カフェのようなリラックスできる空間なので、緊張しにくい効果があるし、大人数の前で発言するよりも、少人数の前では発言しやすいはず。また少人数で距離が近く、話を聞いてもらいやすい環境のため自分の素の意見を言いやすいという効果もあります。

#### ② 相手との繋がりを意識できる

「ワールド・カフェ方式」の次の効果として、相手との繋がりを意識できるという点があります。「ワールド・カフェ形式」は、ディベートのように否定される事はありません。自分の素直な意見を否定されず、尊重されるので、より対話が活発になる効果があります。相手の意見を聞き、繋がりを意識しながら、自分の意見を伝えられるので、場の一体感を感じられる効果もあります。

#### ③ 参加者全員の意見や知識が共有できる

最後の「ワールド・カフェ方式」の効果として、参加者全員の意見を知る事ができると

いう点が挙げられます。テーブルを移動するたびに、直接でなくても、先に議論をした人達の意見を知るといった効果があります。これは移動の回数が増えるごとに効果が増します。テーブルでは少人数で話しているにも関わらず、多くの人との意見交換や知識の共有ができます。

#### 4. 今日の授業を振り返って

授業では「ワールド・カフェ」という議論の形式を取り入れ、話し合いのテーマは「大学時代にやっておくべきこと」でした。

ワールド・カフェの説明、および実施手順は参考文献を参照してもらいたい。

学生にとっては今まで経験したことのない「ワールド・カフェ」という手法でしたが、この授業で、これまで勉強し高めてきたコミュニケーション力を発揮し、新しい「ワールド・カフェ」という手法でもしっかりと議論ができました。

学生は他者の意見と自分の意見が同じであれば共感し、違っていればその違いをお互いに認め、自分が思いもよらない意見を聴くことによって、「そのような考え方があるんだ」という新たな発見ができます。「自分の視野を広げることができるようになった」という感想を述べた学生がたくさんいました。

このように「ワールド・カフェ」という手法は、コミュニケーション能力を飛躍的に伸ばす効果があります。今後とも、「ワールド・カフェ」という手法を授業の中に取り入れ、さらに授業の品質を高めていきたいと考えています。

#### 参考文献

『ワールド・カフェの手引き』（SPODフォーラム2012）より（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク SPOD: Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education）

資料1 事前のメモ

テーマは「大学時代にやっておくべきこと」

メモ

